

令和6年度 徳島県立文書館協議会 次第

日 時： 令和6年9月12日（木）

午前10時から

場 所： 徳島県立文書館 2階 講座室

1 開会

2 館長挨拶

3 議事

（1） 令和5年度事業実績について

（2） 令和6年度事業計画について

（3） そ の 他

4 閉会

徳島県立文書館協議会委員名簿

氏 名	職 名	備 考
小笠原 章	四国大学経営情報学部 教授	地方行政・地方自治
衣川 仁	徳島大学大学院社会産業 理工学研究部教授	日本中世史
小部 さくら	公募委員	
須藤 茂樹	四国大学文学部教授	日本中近世史
田中 佳	徳島大学大学院社会産業 理工学研究部准教授	文化史
西本 沙織	徳島地方史研究会	考古学
原田 昌博	鳴門教育大学大学院学校 教育研究科教授	ヨーロッパ近代史
船井 由美子	公益社団法人三木文庫 学芸員	染色史
別府 優香	海陽町立博物館学芸員	美術史
松山 隆博	徳島文理大学保健福祉学 部准教授	日本中世史

※ 五十音順、敬称略

任期：令和５年６月１日～令和７年５月３１日

令和 5 年度徳島県立文書館事業実績

1 来館者数

年 度	文書館	文化の森全館
平成 2 年度(5 か月間)	1 7, 5 4 0 人	6 0 3, 9 3 7 人
3 年度	2 7, 3 3 3 人	7 9 2, 8 4 2 人
4 年度	1 9, 2 9 7 人	7 1 3, 0 7 5 人
5 年度	1 7, 8 5 6 人	6 6 7, 9 0 1 人
6 年度	1 9, 8 2 5 人	6 4 7, 2 4 9 人
7 年度	3 5, 0 7 8 人	7 9 2, 9 1 5 人
8 年度	1 9, 5 9 3 人	7 1 3, 7 5 0 人
9 年度	1 9, 7 9 6 人	6 9 8, 6 1 6 人
1 0 年度	2 3, 3 1 6 人	7 2 3, 2 6 7 人
1 1 年度	2 6, 7 0 5 人	7 6 5, 9 8 2 人
1 2 年度	4 5, 3 0 0 人	7 6 7, 7 6 0 人
1 3 年度	2 6, 2 6 3 人	7 5 1, 8 5 1 人
1 4 年度	2 5, 6 2 5 人	8 6 8, 3 6 6 人
1 5 年度	2 7, 4 3 6 人	8 6 5, 4 9 8 人
1 6 年度	3 3, 0 5 6 人	9 2 4, 4 4 4 人
1 7 年度	3 9, 4 5 4 人	8 6 0, 0 3 7 人
1 8 年度	3 5, 0 8 9 人	8 2 7, 6 9 9 人
1 9 年度	2 4, 2 1 5 人	8 7 8, 6 3 9 人
2 0 年度	2 7, 1 7 7 人	7 6 2, 4 0 3 人
2 1 年度	2 5, 8 5 1 人	8 3 7, 3 7 1 人
2 2 年度	3 2, 9 4 8 人	7 9 2, 9 6 2 人
2 3 年度	2 5, 1 8 3 人	7 5 9, 9 5 6 人
2 4 年度	2 7, 5 1 6 人	7 0 3, 1 8 7 人
2 5 年度	2 9, 1 3 3 人	6 6 9, 2 8 2 人
2 6 年度	3 6, 2 2 1 人	7 0 9, 7 9 8 人
2 7 年度	3 6, 3 9 7 人	7 9 2, 1 2 2 人
2 8 年度	4 3, 8 1 6 人	9 3 7, 1 1 6 人
2 9 年度	4 0, 3 6 4 人	8 1 4, 8 1 6 人
3 0 年度	4 1, 6 1 2 人	8 6 1, 1 2 1 人
3 1 年度	4 6, 9 6 9 人	8 7 7, 9 2 2 人
令和 元年度		
2 年度	2 4, 1 2 1 人	6 2 5, 4 0 0 人
3 年度	4 0, 2 8 1 人	6 2 7, 8 7 9 人
4 年度	4 5, 5 4 1 人	6 7 7, 9 0 5 人
5 年度	3 1, 6 9 5 人	6 2 7, 4 4 8 人
累 計	1, 0 3 7, 6 0 2 人	2 5, 9 4 0, 5 1 6 人

2 企画展示事業

(1) 令和 4 年度よりの残事業

第 6 5 回企画展「近世小松島商人の蔵書Ⅱ」

令和 5 年 1 月 3 1 日～令和 5 年 4 月 2 3 日 (1 9 日)

入館者数 1, 4 4 8 人<4 月 1 日より 4 月 2 3 日まで>

小展示

「公文書に見る徳島の風水害」

令和 4 年 9 月 2 3 日～令和 5 年 4 月 2 3 日 (1 9 日)

(2) 令和5年度の企画展

① 文書館の逸品展「絵はがきが切り取る徳島の名所」

令和5年4月25日～7月30日

入館者数 6,767人

② 第66回企画展「地券と土地台帳―地租改正150年―」

令和5年8月1日～10月22日

入館者数 5,636人

③ 第67回企画展「和田島村と和田津新田―森家文書と栗本家文書―」

令和5年10月24日～令和6年1月28日

入館者数 6,134人

④ 文書館の逸品展「公文書を残す―保存から利用へ 公文書管理条例の施行―」

令和6年1月30日～令和6年4月21日

入館者数 4,171人（令和6年3月末まで）

(3) 共催展示

① 「近世小松島商人の蔵書Ⅱ」（第2会場）

・ 令和5年1月31日～4月23日

・ 徳島県立二十一世紀館との共催

・ 徳島県立二十一世紀館U字型展示ケースを使用

② 「絵はがきが切り取る徳島の名所」（第2会場）

・ 令和5年4月25日～7月30日

・ 徳島県立二十一世紀館との共催

・ 徳島県立二十一世紀館U字型展示ケースを使用

③ 「写真でくらべる徳島百年」

・ 令和6年1月14日～令和6年2月4日

・ 徳島県立城南高等学校生徒との共催

・ 当館2階休憩コーナーにて展示

(4) 出張展示

当館の収蔵資料を県内の各地で展示・紹介する取組をおこなっている。

「徳島の歴史資料に見る感染症」

令和4年6月13日～6月24日

徳島県庁すだちくんテラス

② 「徳島県立文書館に眠る美馬市の古文書」

令和5年9月30日～令和5年10月28日

美馬市立図書館

3 教育普及事業

(1) 郷土の歴史や文化に関する講座を開催し、県民に生涯教育の場を提供した。

【古文書講座】

ア 古文書講座（初級） 令和5年5月13日～9月23日 第2・4土曜日

・ 参加者延べ 242人

・ 計10回を開催し、館所蔵の史料を利用して、古文書等の基礎的知識の取得及び解読能力の向上をはかった。

・ 新型コロナウイルス感染対策のため30名程度に制限していた定員は、例年の40名程度に戻した。

・ 講座内容は以下の通り。講師は金原祐樹・徳野隆・嵐大二郎が担当

①	開講式・入門講座
②	和本を読む（仮名文字と言ひ回し）

	－「阿波名所図会」を読む1－
③	和本・書軸を読む（文字に慣れる） －「阿波名所図会」を読む2－
④	江戸時代の文体に慣れる1 －徳島の古文書を読む会刊行の史料集を読む－
⑤	江戸時代の文体に慣れる2 －徳島の古文書を読む会刊行の史料集を読む－
⑥	古文書の文字に慣れる1 －地域に残る古文書を読む－
⑦	古文書の文字に慣れる2 －地域に残る古文書を読む－
⑧	古文書の辞書を使う1 －証文・切手を読む－
⑨	古文書の辞書を使う2 －証文・切手を読む－
⑩	書簡を読む・閉講式（修了証授与）

イ 古文書講座（中級） 令和5年10月14日～令和6年1月27日 隔週土曜日

- ・参加者延べ 184人
- ・当館の古文書講座（初級）の修了者を対象に、徳島県下の史料等を利用して、古文書についてさらに深く知りたいという人々の要望に応えた。
- ・新型コロナウイルス感染対策のため30名程度に制限していた定員は、例年の40名程度に戻した。
- ・令和5年度は担当職員が増えたため、例年より多い計8回開催。
- ・講座内容と講師は以下の通り。

①	「古文書が伝える幕末の激動」	徳島県立文書館主席	徳野隆
②	「徳島藩士の宗門改」	徳島県立文書館職員	板東英雄
③	「江戸時代の産業と水車」	徳島県立文書館館長	金原祐樹
④	「御鷹方のおしごと」	徳島県立文書館主事	関麻希
⑤	「近世の海運業関係資料を読む」	徳島県立文書館職員	湯藤由紀子
⑥	「庄屋交替要求文書を読む」	徳島県立文書館職員	山口幸歩
⑦	「変体仮名を読んでみよう」	徳島県立文書館職員	岩崎麻美
⑧	「酒造株について」	徳島県立文書館係長	嵐大二郎

【文書館歴史講演会】

館の事情により令和5年度は開催せず

【展示解説】

企画展・資料紹介展の展示講演会・展示解説を開催することによって、展示内容や時代背景などをより深く知りたいという人々の要望に応えた。

①	第65回企画展「近世小松島商人の蔵書Ⅱ」 展示解説(3) 令和5年 4月14日 参加者 13人
②	文書館の逸品展「絵はがきが切り取る徳島の名所」 展示解説(1) 令和5年 5月11日 参加者 9人 展示解説(2) 令和5年 6月 4日 参加者 8人 展示解説(3) 令和5年 7月17日 参加者 17人
③	第66回企画展「地券と土地台帳－地租改正150年－」 展示解説(1) 令和5年 8月20日 参加者 13人 展示解説(2) 令和5年 9月13日 参加者 7人 展示解説(3) 令和5年10月 7日 参加者 11人
④	第67回企画展「和田島村と和田津新田－森家文書と栗本家文書－」 展示解説(1) 令和5年11月12日 参加者 17人 展示解説(2) 令和5年12月15日 参加者 11人 展示解説(3) 令和6年 1月20日 参加者 19人

⑤	文書館の逸品展 「 公文書を残すー保存から利用へ 公文書等の管理に関する条例の施行ー 展示解説(1) 令和6年 2月 9日 参加者 7人 展示解説(2) 令和6年 3月 16日 参加者 12人
---	---

(2) 文書資料保存に携わる職員等や民間の古文書所蔵者を対象に、資料保存に関する知識を提供した。

【古文書保存講座】 令和5年9月27日・28日 参加者延べ 22人

記録遺産としての古文書の保存と活用を図るための講座を開催した。新型コロナウイルス拡大の影響により、講師先生の来県が困難なため、令和2年度から令和4年度までは開催を見送ったが、令和5年度は以下の通り実施した。

第1日(9月27日)		
①古文書の保存・利用の理論と実際	徳島県立文書館館長	金原祐樹
②徳島県立文書館収蔵庫等保存施設の見学	徳島県立文書館館長	金原祐樹
③古文書の補修 ー理論・実習ー	元宮内庁書陵部修補師長	横山謙次
第2日(9月28日)		
古文書補修ボランティア養成講座特別実習	元宮内庁書陵部修補師長	横山謙次

(3) ボランティア活動

【古文書補修ボランティア・同養成講座】

- ・毎月2回(第1・第3水曜日)
- ・参加者は毎回10人程度
- ・文書館収蔵古文書の補修を行った。
- ・新型コロナウイルス感染対策として始めた、密を避けるために参加者を午前と午後に分けての実施は一部緩和しながらも継続している。

(3) 文書館活動の内容や研究成果を発表・報告した。

- | | |
|----------------------------------|--------------|
| ①「文書館年報」第26号 | 令和5年 8月28日発行 |
| (※第21号より当館ホームページのみの閲覧に移行) | |
| ② 図録「絵はがきが切り取る徳島の名所」 | 令和5年 4月25日発行 |
| ③ 図録「地券と土地台帳ー地租改正150年ー」 | 令和5年 8月 1日発行 |
| ④ 図録「和田島村と和田津新田ー森家文書と栗本家文書ー」 | 令和5年10月24日発行 |
| ⑤ 図録「公文書を残すー保存から利用へ 公文書管理条例の施行ー」 | 令和6年 1月30日発行 |

【その他の教育普及事業】

(1) 文書館ウィーク

例年、中国・四国地区の各文書館・公文書館では、公文書館法施行の記念日である6月1日からの1週間を「文書館(アーカイブズ)ウィーク」として、各種イベントを開催している。令和5年度は当該期間中に、開催中の展示についての解説を実施した。

(2) 教員のための文書館活用講座

平成28年度より、県内の中学校社会科・高校地歴科教員を対象に開講し、文書館資料を地域史学習の教材として活用するヒントやノウハウを伝えている。令和3年度からは教職を目指す大学生・大学院生も対象に募集をおこなった。令和5年度は館の事情により開催せず。

(3) 公文書管理・保存講座

例年、主に県内自治体の職員を対象に開講し、公文書の保存と活用の重要性を伝えている。

令和5年度は館の事情により開催せず。

4 調査研究事業

(1) 県内外に所在する古文書や公文書など貴重な歴史資料の調査・収集、市町村所蔵史料

の整理支援を進めた。

【資料調査・収集先】

- ・藤沢家（徳島市）
- ・徳島県立富岡西高等学校（阿南市）

（２）県内資料の所在調査及び情報収集を円滑に行うため県内各地域に資料調査員をおき、情報収集に努めている。また、文書館資料調査員会議を年１回開催している。令和４年度までは４年連続で開催できなかったが、令和５年度は、令和６年３月１９日に久しぶりに開催し、コロナ禍での様々な問題を始め充実した会合となった。

（３）文書館関係の情報交換及び研修をはかった。

- | | |
|--|-------|
| （１）全国歴史資料保存利用機関連絡協議会（全史料協）近畿部会総会及び第 165 回例会（尼崎市立歴史博物館） | 2 名参加 |
| （２）徳島県博物館協議会総会・研修会（あすたむらんど） | 1 名参加 |
| （３）全史料協近畿部会第 166 回例会（滋賀県大津合同庁舎） | 1 名参加 |
| （４）全史料協総会（オンライン） | 2 名参加 |
| （５）国立公文書館主催アーカイブズ研修Ⅰ（オンライン） | 3 名参加 |
| （６）国立公文書館主催アーカイブズ研修Ⅲ（国立公文書館・外交史料館） | 1 名参加 |
| （７）全史料協全国（東京）大会（対面・オンライン併用） | 5 名参加 |
| （８）中国・四国地区文書館等職員連絡会議（広島市） | 1 名参加 |
| （９）全史料協近畿部会 167 回例会（和泉市いずみの国歴史館） | 1 名参加 |
| （１０）全史料協近畿部会 169 回例会（京都芸術大学） | 2 名参加 |

※なお、徳島県立文書館は令和５年度、全史料協大会・研修委員会の事務局として、東京においての全国大会の準備や運営、会計などの事務全般を行った。令和６年度も引き続き事務局を務める。令和６年度の全史料協全国大会は宮城県仙台市にて開催予定。

（４）全国公文書館長会議（東京都） 1 名参加

（５）国立公文書館主催アーカイブズ研修Ⅰ（オンライン） 3 名参加
 国立公文書館主催アーカイブズ研修Ⅲ後期（国立公文書館・外務省外交史料館） 1 名参加

５ 資料収集整理

古文書・公文書及び行政資料など歴史的文化的価値のある資・史料を広く収集するとともに、整理保存を行い、閲覧等の利用に供した。

（１）整理状況

区 分		令和６年３月末現在
公 文 書		2 6 , 3 8 8 冊
行政資料	刊 行 物	8 2 , 5 1 1 冊
	複 製 本	1 7 6 冊
	マイクロフィルム	1 , 0 3 3 リール
	マイクロフィッシュ	8 7 0 枚
	光ディスク	2 0 枚
	そ の 他	1 6 6 点
小 計		8 4 , 7 7 6 点
古文書	文 書	2 3 2 , 4 4 0 点
	複製絵図	5 1 9 枚
	マイクロフィルム	2 , 6 2 8 リール
	小 計	2 3 5 , 5 8 7 点
そ 図 書		1 2 , 2 3 9 冊

の他	写真	13, 576枚
	小計	25, 815点
	合計	372, 566点

- (2) 令和5年度寄贈・寄託資料等
 大久保（武子）家文書（3点） 大久保（健治）家文書（2, 663点）
 庄野家文書（483点） 堀江家文書（1点）
- (3) 令和5年度公開古文書
 栗飯原家文書（64点） 堀江家文書（1点）

6 文書館への来館・研修等

- ・シルバー大学校卒業生（館内見学・展示解説）
- ・徳島県立城南高等学校生徒（資料閲覧）
- ・徳島県立城南高等学校生徒（インターンシップ）
- ・徳島大学学生（インターンシップ）
- ・徳島市立高等学校生徒（インターンシップ）
- ・徳島市立高等学校生徒（資料閲覧）
- ・高知県県史編さん室（資料閲覧）
- ・全史料協大会・研修委員（館内見学）

7 各講座への出講・出前授業・学術会議への招へい等

- ・阿波を学ぶ（歴史編）（金原・徳野）
- ・歴史文化倶楽部月例講座（徳野）
- ・徳島県祭り・行事に関する調査委員会（徳野）
- ・シルバー大学院（金原・徳野・板東）
- ・シルバー大学校（金原・徳野・嵐・板東）
- ・ふるりの歴史を学ぶ会学習会（金原・徳野）
- ・徳島県立城北高等学校出前授業（徳野）
- ・阿波市文化財研究会研修会（徳野）
- ・徳島市立洪野小学校出前授業（嵐）
- ・学芸員養成科目（金原・嵐）
- ・海陽町立博物館古文書読み方講座（金原・徳野・嵐）

令和6年度 徳島県立文書館事業計画及び実績

令和6年度当初予算額 21,516千円
 (新文書館システム(仮称)構築事業費14,985千円を含む)
 令和5年度当初予算額 6,457千円

- 1 一般管理費 1,179千円(前年度 961千円)
 文書館協議会の開催、各種機器の保守点検の実施等、館全体の管理運営を行う。
- 2 企画展示事業 1,587千円(前年度 587千円)
 - (1) 企画展・文書館の逸品展
 徳島県の歴史や文化に関するテーマについての展示を、約3か月を会期として年4回開催する。展示ごとに図録を作成し、郷土の歴史や文化に対する県民への発信を行う。
 - ①第68回企画展「折り込みチラシに見る徳島の30年」
 令和6年4月23日～8月4日
 日々の新聞に折り込まれるチラシ。当館では開館以来30年以上、収集・保存してきた。懐かしい商品や当時の流行など、チラシを通して生活の変遷を紹介する。また、身近なものが歴史的資料になり得ることも紹介する。
 - ②第69回企画展「徳島が高知県だったころ」
 令和6年8月6日～10月27日
 明治9年(1876)から明治13年(1880)まで、徳島県(当時名東県)は高知県に編入されていた。資料を通して、その短期間に生じた事柄や変化について紹介する。
 - ③第70回企画展「お役人様がやってきた！」
 令和6年10月29日～令和7年1月26日
 巡見や調査などの理由で徳島にやってくる幕府の役人や要人。そして、村にやってくる藩の役人。訪問先は準備と対応に苦慮します。資料を通して、役人の来訪の様子を紹介します。
 - ④第71回企画展「花ひらく 阿波の興行」
 令和7年1月28日～4月20日
 江戸時代、人々は浄瑠璃・芝居・相撲・軽業などの娯楽を楽しんでいた。阿波国内でも各地で興行が行われている。資料を通して、その様子を紹介する。
 - (2) 出張展示
 当館の収蔵資料を県内の各地で展示・紹介する取組を行う。
 - (3) 共催展示(実施済を含む)
 他機関との共催で、文書館の収蔵資料を展示・紹介する。
 - (1) 文書館収蔵資料に見る「入学・卒業」
 - ・令和6年4月2日～4月21日
 - ・徳島県立二十一世紀館との共催
 - ・徳島県立二十一世紀館U字型展示ケースを使用
 - (2) 第68回企画展「折り込みチラシに見る徳島の30年」(第2会場)
 - ・令和6年4月23日～8月4日
 - ・徳島県立二十一世紀館との共催
 - ・徳島県立二十一世紀館U字型展示ケースを使用
- 3 教育普及事業 579千円(前年度 579千円)
 - (1) 郷土の歴史や文化に関する講座を開催し、県民に生涯学習の場を提供する。
 - ①古文書講座

- ・館所蔵資料を利用し、古文書等の基礎的知識の取得および解読能力の向上を図る。
- ・令和6年5月～令和7年1月 初級全10回・中級全8回 計18回実施予定。
- ・令和6年8月末現在、古文書講座（初級）第8回まで終了。

②文書館歴史講演会

例年、当館の企画展に合わせた内容や、徳島県内の史料を用いた講演会を企画している。令和6年度は10月5日に徳島県立図書館集会室1にて実施予定。

③展示解説

企画展・逸品展の期間中に3回実施。展示内容や時代背景などについて解説を行う。

(2) 文書資料保存に関する知識を伝える。

①古文書保存講座

市町村の古文書保存担当者や古文書所有者等を対象に、古文書の保存に関する研修を開催し、歴史資料保存のための知識を普及する取組である。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、令和2～4年度は実施を見送ったが、令和5年度は4年ぶりに実施した。令和6年度は令和7年1月以降に実施予定。

②古文書補修ボランティア養成講座

- ・毎月第1、第3水曜日
- ・補修ボランティアとしての活動を希望する方を対象とした養成講座。

③公文書管理・保存講座

- ・主に県及び市町村職員を対象に、文書資料の保存について研修を行う。

(3) 教育機関との連携をはかる。

①教員のための文書館活用講座

- ・中学校・高等学校の社会科・地歴科教員と教員を目指す大学生・大学院生を対象に、文書館資料の授業への活用について解説し、活用案について協議する。
- ・令和6年度は春季休業中の実施を検討している。

②出前授業

- ・学校現場との連携を深めるため、積極的に案内している。

③校外学習・インターンシップの受入（実施済を含む）

- ・県や教育機関より依頼され、日程調整の上、実施している。
- ・令和6年度は8月に徳島市立高等学校生徒1名、県職員への就職を希望する大学生を対象とした「サマーチャレンジ」および「サマープロジェクト」にてのべ6名の大学生が当館の業務を体験。

④学生ボランティアの受入（実施済を含む）

- ・年4回のフェスティバル行事の準備・運営の手伝いを募集する。
- ・令和6年度は、文化の森サマーフェスティバルの準備にのべ3名の学生が参加。

⑤学芸員養成科目・シルバー大学校・シルバー大学院への出講 等

(4) 文書館の活動をアピールする。

①文書館ウィーク

中国・四国地区の各文書館・公文書館では、公文書館法施行の記念日である6月1日からの1週間を「文書館（アーカイブズ）ウィーク」として、各種イベントを開催している。

令和6年度は、開催中だった企画展「折り込みチラシに見る徳島の30年」の展示解説を実施した。

②文化の森こどもの日フェスティバル

- ・令和6年5月5日に実施。

- ・当館においては「牛乳パックをリサイクルしてオリジナルはがきを作ろう」・「徳島の歴史パズル」・「くずし字クイズ “古文書仮面からの挑戦状！”」を実施。

③文化の森サマーフェスティバル

- ・令和6年8月11日に実施。
- ・当館は「和紙を使ったオリジナルうちわ作り」・「くずし字クイズ “古文書仮面からの挑戦状！”」を実施。

④文化の森秋祭り

- ・令和6年11月3日に実施予定。
- ・文化の森各館共催でワークショップなどを実施する。現在、文書館内のイベント内容について協議中。

⑤文化の森ウィンターフェスティバル

- ・令和7年2月11日に実施予定。
- ・文化の森各館共催でワークショップなどを実施する。現在、文書館内のイベント内容について協議中。

(5) ボランティア活動

古文書補修ボランティア

- ・毎月第1・第3水曜日に開催。
- ・文書館所蔵資料の補修を行う。
- ・令和6年4月～8月の平均参加者は15名程度（見学者含む）

(6) 徳島の古文書を読む会

平成3年、当館主催の古文書講座の修了生によって、「徳島の古文書を読む会」が結成された。現在約90名の会員が7班に分かれ、月例会において古文書解読を行なっている。また、県内外の各種機関がもつ歴史資料に触れる臨地見学会や、県内の他の古文書解読サークルとの合同学習会も実施している。例年、総会の際には講演会も行っている。平成16年からは史料集の作成に着手し、令和5年度に刊行したものも含め、合計16冊を刊行している。

(7) 「文書館年報」「文書館だより」「研究紀要」等を作成する。

- ・「文書館年報」は第21号より当館ホームページのみの閲覧に移行。
- ・「文書館だより」は第43号より当館ホームページのみの閲覧に移行。
- ・「研究紀要」は当館ホームページだけでなく、冊子としても刊行。

4 調査研究事業 1,140千円（前年度 1,140千円）

- ①文書館所蔵資料の整理・保存・研究を行うとともに、県内外に所在する公文書や古文書など貴重な歴史資料の調査・収集を進め、その成果として資料目録作成や研究紀要等の刊行を行う。
- ②県内資料の所在調査および情報収集を円滑に行うため、資料調査員を置く。
- ③各種研修会等に参加し、文書館職員としての知識や技術を習得する。
- ④他府県の県史編さん状況を調査する。
- ⑤市町村の公文書を中心とした資料調査を行う。
- ⑥県内大学や研究機関等との連携による資料整理を行う。

5 資料収集整理事業 2,046千円（前年度 3,190千円）

- ①公文書・古文書など歴史的文化的価値のある資料を広く収集すると共に、整理・保存事業を行い、閲覧等の利用に供する。
- ②歴史資料のうち現物の収集ができないものは、デジタル撮影等による複写や、複製物を作成して収集を図る。

6 新文書館システム(仮称)構築事業 14,985千円（新規）

公文書管理条例や電子公文書の受け入れに対応するため、業務システムを刷新する。